

ひばりやまにしおねこふんぐん 雲雀山西尾根古墳群 とは

長尾山丘陵の東部にあたる宝塚市平井4丁目11付近にかつて所在していた古墳群です。

古墳群は、北から南へ延びる尾根上に位置しており、北からA・B・Cの3つの支群に分かれています。

A支群は未調査で推定16基の古墳があるとされています。C支群は雲雀丘学園グラウンド付近に数基あったとされ、早いうちに消滅したと考えられています。B支群は北から南へ延びる尾根筋が平坦地と交わるやや広い原野に位置しており、昭和63年の開発に伴う発掘調査により10基の古墳が確認されました。

今回の企画展では、昭和63年に発掘調査が行われたB支群4号墳～10号墳を中心にご紹介いたします。



雲雀山西尾根古墳群発掘調査時の様子（全景）

宝塚市立 小浜宿資料館ご案内

資料館がある“小浜地域”は、15世紀末（室町時代）に建てられた毫摂寺を中心に「寺内町」として成立しました。江戸時代になると、大阪や京都と有馬・西宮を結ぶ交通の要衝であったことから「宿場町」として大変栄えました。現在も当時の面影がある町並みが一部に残っています。資料館では、小浜地域の歴史や資料の紹介や、当時の小浜の町並みを再現した見応えあるジオラマを展示しています。

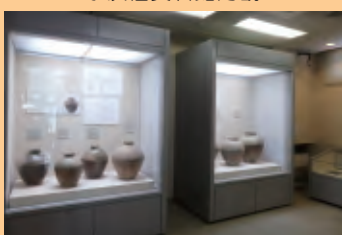
また、市立西谷中学校運動場付近で発見された堂坂遺跡の壺と古銭（国保有文化財）も常設展示しています。



小浜宿資料館外観



小浜宿資料館内観



常設展「堂坂遺跡の壺と古銭」

